

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 文化財課

会議の名称	令和5年度 第2回茅野市博物館協議会		
開催日時	令和6年2月16日（金）午後1時30分～午後2時56分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 実験工作室		
出席者	河村洋委員長、白鳥保美副委員長、小林俊男委員、市川純章委員、小林正八委員、両角紀子委員、松本光夫委員、田中正行委員、池田啓子委員、黒田嘉孝委員、小川博子委員 山田利幸教育長、上田佳秋生涯学習部長、小池岳史文化財課長兼尖石縄文考古館長、山科哲同考古館係長、両角徹生八ヶ岳総合博物館長、正木美香同博物館係長、鶉飼幸雄神長官守矢史料館長、柳川英司神長官守矢史料館担当		
欠席者	矢崎進一委員、両角茂子委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
生涯学習部長	<p>1 開会 本日はお忙しい中、またお寒い中お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 また、日頃から、生涯学習の推進にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。 それでは早速ですが、第2回、茅野市博物館協議会を始めさせていただきます。 どうぞよろしくお願いいたします。</p>		
教育長	<p>2 教育長挨拶 皆さんお集まりいただきありがとうございます。 5月にコロナウイルス、5類に移行したわけですが、3年間思い返すと悪夢のような3年間でした。 ただその中で私たちの3つの博物館とも、全国の博物館が、縮小される或いは廃止されるという中で、自分たちの築いてきたものを維持するという事を一生懸命やって来た次第です。 5月からのあゆみ、5年度からの歩みを振り返ってみた場合、博物館が本来持っている調査研究、そしてそれプラス、保存、また教育という分野について、地道に歩を固めてきた今日までであったと思います。これから各施設の発表がございますが、例えば尖石考古館。文字どおり縄文学の総本山になりつつあります。農業の研究のシンポジウム、或いは宮坂英式記念縄文文化賞。今年は、佐々木さんが受賞されましたが、個人的にはあの方の研</p>		

究は、新しい縄文の方向なのではないかと思います。いわゆる縄文の農耕、まではいなくても、今までより何か1歩を踏み出すものがある気がします。それから縄文かるたですが、コロナの間かるた大会はできなかったということで、ちょっと中断したわけですが、今学校教育課では、かるたの研究を始めています。これを使って新学期、新しい子どもたちに縄文を教えていこうと考えています。

それから市民の皆さん、学校との連携も非常に精力的に行ってくださいました。

ちょうど平成29年当時、学校との連携ってあんまり、なかったですよ。本当になかったけれども今年度、いくつかの学校が数多く講座をやってくださいしています。

それから総合博物館の方ですが、市民科学プロジェクトの中で、諏訪地方のアマチュア天文学者の方々との連携、河村先生のご尽力いただいたわけです。方言の研究、そんなところで、非常に博物館としての機能が強化されてきていると思います。

博物館は、諏訪地方の本当に自然関係の博物館を中心に、なり始めている。そんなふうに私は思います。

市民研究員の方々の、研究活動非常に盛んです。それから、学校との連携も、数を数えてみたら50数回講座を開いてくださっているという、そういう状態であります。

また、神長官、入会者約1万名。そして今年度、テレビで徳川家康をやったようですが、その関係で1万人が集まるのだったら別に考古館に来なくてもいいのだけでも、なぜ1万人も徳川家康を目当てに集まったかっていうか、やはり中世の守矢家の古文書が、深く学びたいっていう方々が、1万人もいらっしやった、そんなふうに思います。

私たちのまわりにいろいろ問題があります。

今日、忌憚のないご意見を伺いたいと思いますが、本来の博物館のあり方をもう一度今しっかり固めているところです。

最後、蛇足になりますが、ここの総合博物館も考古館も神長官もすべて美しい自然に囲まれた中にある博物館です。都会の真ん中のコンクリートにある博物館ではなくて、人とともにある、自然とともにある博物館だと思います。ぜひ、大切に守っていきたいと思います。

どうか今日はよろしくお願いします。

3 協議事項

(1) 審議会等の会議の公開について

協議に先立ち、協議会の公開について事務局から説明。

～資料1、資料2の説明～

本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開します。

(承認)

了承される。

<p>委員長 委員</p>	<p>(2) 各館 令和5年度事業報告について 資料に基づき、年間事業報告について事務局から説明を行う。</p> <p>①尖石縄文考古館（考古館長） はい。ありがとうございます。ご意見はございますか。 毎年、精力的な活動ですばらしいと思います。僕自身は、ずっと思っていることがあって、縄文検定や縄文の市民ガイド、これは、いいというふうに思いますが、ここはぜひ、大きな目標として、茅野市民全員が縄文博士を目指すようになるというようなことと、茅野市民全員が縄文ガイドになるっていうぐらいのことでいくと、人手不足もなくなるし、そんな形で人数が多くなると、ガイドの高齢化が進んでも大丈夫だということで、市民全員が縄文博士だという目標を掲げるとよいと思います。 そうすると、これは茅野市が別で抱えているシティプロモーションにも通じるのかなと思います。外の人に縄文をアピールすると言っても、当の茅野市民が知らなかったり、関心がなかったりしたら、何か嘘っぽいですよね。なので、茅野市民は常に縄文を語れるようにするのが面白いのかな、そんな大きな目標を掲げてもいいんじゃないかなと思いました。 あと、縄文文化賞です。とてもよかったなと思いました。ミステリー仮説で臨んでいくということ。これを各市民が見られるチャンスをもっと広げられないのかなと思いました。それにはリモート配信だろうと思っていたら、縄文ゼミナールではそういうことをやっているということだったので、配信もあっていいのではないかと思います。 その時に、zoomなどであれば、心配ないということだったんですけども、技術的にはzoomだと、その上でYouTubeチャンネル設定すると自動的にYouTubeチャンネルで配信できますので、映像的に「カチッ」と凝ったものでないならば、比較的小手軽に配信できます。私もいつもそう対応しております。 あと、縄文考古館に行ってみようキャンペーン。去年、全員どうぞとなると、いつでもいいとなってしまいうから、エリアを決めて市民を招待したらどうですかと思ったんですけども、むしろ新しく来る人、移住してくる人に、転入して住民票を出した段階で、2年間くらい、「あなたに（考古館無料見学の）権利があります」ぐらいのことをして、茅野へようこその中に、こういうのがあるよと紹介して、新しく来た人に知ってもらおう。そういうところをねらっていくのもいいのかなと、そんなふうに思いました。</p>
<p>委員長 委員</p>	<p>ZoomとYouTubeの連携ができるようなので、この機会に聞いてみてください。 まずは尖石縄文考古館の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。 玉川小学校では、縄文科の学習で3・4年生が大変お世話になりました。3・4年生ともに、土器文様に余裕をもって探求することができました。その文様も、自分としては「こういう願いか？」と、本当考えてるっていうそういう縄文世界に没頭する姿がありました。 玉川小以外でも大変お世話になったと思います。 ありがとうございました。</p>

<p>考古館長</p>	<p>大変な重要なお報告を書き落としてしまったことがありますので、ご報告したいと思います。</p> <p>縄文に関わる、北部中学校の生徒さんの取り組みが今年度、2件ほどありました。</p> <p>1つは、東京の府中市の学校と、茅野市が連携を始めておりますけれども、北部中学校の女子生徒さん6名が、府中南町小学校の児童の皆さんが見学に来たときに解説をしました。</p> <p>尖石遺跡、宮坂英弐の業績を展示してある部屋と、国宝土偶を展示してある部屋を案内しました。子どもたちはもちろんですけれども、校長先生がものすごく感動されて、また来年もというようなことで、好評でした。</p> <p>女子生徒さんも、「このような機会があればまたやりたい。」ということをおっしゃっていますので、無理のない範囲でそんな機会をまた設けられればいいなと思っております。</p> <p>もう1点です。</p> <p>おそらく縄文市民科からひらめいたんではないかと思われませんが、考古館のミュージアムショップで、女子生徒さん2人が、1人は犬の首輪ですね、それを組紐で編んで、大きさも2種類つくり、それを販売しました。</p> <p>もう1人の生徒さんは、ヘアピンをあるところから買って来たものを、縄文風の模様を入れて販売をしたところ、完売しました。</p> <p>北部中学校の生徒さんは、やはり地域資源として何かまちづくりへ生かしたいという思いがすごくあったようで、「本当に考古館で売ってもらえるのかな？」という相談から始まって、私たちも、どんなふうにしたらいいんだろうというお話もしながら進めました。そのような、自発的な、取り組みがありましたのでご報告をいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>府中は13校、今年から茅野市に学習旅行に来るようになりました。そのうち何校かが尖石縄文考古館で見学したりいろいろな体験学習をしたりしました。それでこの間、もう来年の予約が入って、ぜひ子どもにガイドをしてもらいたい。そういう要望がありました。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういう県外との交流もあって、先ほどのようなお話を玉川小学校さんは、3年生が学習されたということですね。良かったと思います。他にございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>私は提案したい件ですけれども、先日、松本の博物館が新しくなったということで行ったのですけれども、すばらしい建物になったら、来館者が、県外からもきているわけです。そこには無料で入館できるスペースがあるんですよ。茅野は、各ところを見学するには有料になっているわけですけれども、あるスペースは無料のスペース、そんなことまた茅野の方で取り入れてもらえばね。もう1つ一般市民の関心があって、みんなが増えるんじゃないかなって思いました。</p> <p>それと考古館の中にカプセルトイを販売してる、国宝のね、私もう何回か買っているんですけども、あのスペース、結構関心ある人多いです。</p>
<p>考古館長</p>	<p>先ほどの、生徒さんが作ったものを販売するとか、そういうものも関連するかもしれませんけれども、そういうものを、やはり無料のスペースでもって販売するとかね。運営管理を何か考える、そういうアイデアもあっていいかなって思いました。</p>

委員長	<p>カプセルトイもね、みんな欲しいんじゃないかなと思いました。 はい、ありがとうございました。他にございますでしょうか。 ではちょっと時間も押してきましたので、先に進めます。</p>
委員	<p>②八ヶ岳総合博物館（博物館館長） とても多くの事業を展開されていて、いつも以上にすごいな、何か増えているような気がします。 これは市民研究員とかそういったボランティアスタッフの充実が少し功を奏しているのかなと思うのですが、そういった面は大きいのでしょうか。</p>
博物館長	<p>そうですね。 まだまだやらしてもらわなければいけないことがたくさんあるというふうに私は考えています。</p>
委員	<p>これは学ぶ側としての、生涯学習でもありながら、その結果からまた先生側方に入っていくという関わりも、また、生涯学習ですし、そしてまた広がっていくということなので、ここはぜひ力を入れていくとよいのではないかと思います。 さらにこの時代を考えると、ここから 20 年はどんどん、アクティブシニアといえますか、少し時間の使い方が変わってくる。ゆとりというんですか？ そういう人が増えてくるんじゃないかなと思います。 僕も含めて、20 年後には、そういう方がどんどん増えていく時代が来る。そうするとこういった教養的なところ、或いはそれを他の人に関わるためのボランティア活動とかで、関わりたいなという人が増えてくる時代が 20 年後には来るんじゃないかなと思ってるのでぜひここは力を入れていくと、何か活力ある茅野市になっていくのではないかな。そんな感じがします。ぜひ盛り上げてほしいなと思います。こういったサークルとかいろんなたくさん種類ができていくのもいいのかなと思います。もうできているところに多く入れるのではなくて、新しいテーマもできる、そんな感じでもあると思いますので、ぜひ充実させていって欲しいと思います。</p>
委員	<p>今後の八ヶ岳総合博物館と、小中学校の協働した事業について提案したいと思います。 2月1日に八ヶ岳博物館担当者が開かれ、茅野市 13 校の担当者がここ八ヶ岳総合博物館に集まりました。 実際、担当者が見学しまして、次の 4 つの学習が有効であることが確認されましたのでご報告したいと思います。 1つ目。 小中学生ともに、火山灰に含まれる鉱物の学習が本当にできるっていうことです。 2つ目。 中学校では、先ほど登山の関係があったんですが、八ヶ岳の成因がよくわかる。 3つ目、小学 4 年生における、本校でもやっているんですけども、坂本養川の学習で現地見学とともに、博物館を利用すると、より学習が深まる。 4つめ、小中学校のいろんなクラブ活動でも、ここを活用していけたらいい</p>

委員長 教育長	<p>いのかな、その4つが提案されました。</p> <p>茅野市の校長会でも共有して、今後とも大切に活用していきたいと思えます。本日はいろいろありがとうございました。</p> <p>そういう連携があるということで、市の方から補足が何かありますか。直接関係ないんですが、今年調べ学習コンクールで、茅野市の水晶はどこから出るかっていうものがありました。私は茅野市では水晶は出ないと思ったのですがね。</p>
委員長	<p>岩石のことも、何か子どもたちにやってくれたら面白いなと思えます。</p> <p>では、校長会の方にもそういうふうに、博物館の活用についてコメントいただければと思えます。</p> <p>さっき教育長から、この地方の自然科学系を代表する会がいくつかあるという話がありましたが、そんな感じがしますのは、この茅野市は縄文もあります、やっぱり八ヶ岳の山ろくにある高原都市という感じをだんだん強めていったと思えます。</p> <p>高原都市は、ヨーロッパでもそういうところに行きますと、中心に1つは自然関係博物館があって、その地域のことを総合的に展示しています。そんな位置付けになってくるといいなと。先ほどのおはなしを聞いて思いました。</p>
委員長	<p>③神長官守矢史料館（史料館館長）</p> <p>お話の最後のところに、歴史的ゾーンの学術センターということがありましたけど、1つはゾーンというと、点だけではなくて、地域全体に広がっているということだと思いますが、学術センターとはどういったイメージですか？</p>
史料館長	<p>特に、この学術センター、最初の業務の状況のところになりますけども、歴史的ゾーンの学術センターっていうふうなことが、市の行政計画の中に、位置付けられているということではありません。</p> <p>ただ私ども担当者としては、先ほど、以前から申し上げましたように、国がここ一帯をですね、諏訪信仰史跡として広域指定をしたいというふうなことから、始まったということになります。</p> <p>もちろんその前提にはですね、守矢家の存在があったというふうに認識をしておりますけれども、そういうことを含めて、やっぱり諏訪の古代、特に諏訪神社を中心にした諏訪の古代を、語っていくうえでは、守矢家を中心にした高部の一帯っていうのは欠かせないというふうに認識をしております。</p> <p>ですので、守矢家の今後のこともありますが、先ほど申し上げましたように、守矢家が史跡として指定をされたということもありますので、ぜひその諏訪信仰の、なんて言ったらいいですね、諏訪信仰の古い部分って言ったらいいですかね。</p> <p>要するに諏訪神社発生の問題に関わるようなことに関して諏訪の古代史と絡めて、そういう学術的なその研究。或いはその学習の場になるような、そういうふうな地域としての位置付けが増ということなんです。</p> <p>これから教育委員会の方でどういうふうに考えていくかっていうこととかもあると思えますけども、守矢家の活用とあわせてですね、守矢家の活用</p>

委員長
史料館長
副委員長

と守矢史料館の併用を合わせて、そういうふうな目標を持って運営していくのがいいのではないかと、担当者としては考えている次第です。ゾーンの研究でそれを巻き込んでいきたい、そういうことですか。はい。

3番、共通するかなと思うんですけども、それぞれのところで時代に合った企画展が、工夫されて、すばらしいなと思って聞いていました。来年度以降も企画展、時代に合ったものをお願いしたいなと思うことと、周りの方は報道を通して知る人も多分にいると思うので、新聞社、またLCV等々で、私は報道の力ってすごいなと思います。適切な機関との連携をして、市民により多く、こういうことが行われてるんだっていう、こういう時代に活着ているんだっていうことを、広報していただければありがたいと思います。

(4) その他

現在行われている行財政改革の重点検討事項について文化財課長説明

委員長

茅野市全体として財政が難しい状況にあるということは前からもうかかっています。これらをより詳しく検討されるということでございました。何か、そういったコメントございますでしょうか。

私も大学関係の仕事をしていましたので、各地の博物館に行ってバックヤードなんか見せてもらうこともよくありましたけども、どこでも場所が空いてるなんていうのはなく、もういっぱいです。いっぱいになるということは、市民の方々が、何かと言うときに思い出して博物館に保存を依頼するということが、信頼されていることのおかげだと思います。難しいこともあると思いますが、博物館の活動が維持されることを願っています。

それからもう1つ今日3館のお話を伺って思いましたけども、茅野市の特徴は何かというと、縄文はもちろんそうですが、それから、もう1つは八ヶ岳の山ろくにある高原都市であること、それからもう1つはやっぱり諏訪大社が入ってくるのだと思います。

この3つの特徴に対して、3つの館が配置されているということ、今日は強く感じましたので、これを大事にして活動を継続・発展させるような行財政改革をお願いしたいと思います。

私たちは博物館を応援する立場だと思いますので、よろしくお願ひしたいと存じます。

ありがとうございました。

4 閉会

副委員長

ご苦労様でした。

これにて令和5年度第2回茅野市博物館協議会を終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

～午後2時56分 会議終了～